

道徳たよい

令和7年10月
七塚小学校
校長 奥 健一
3年生担当

今回は、3年生の授業の様子についてお伝えします。

主題名：感謝の気持ち 教材名：「王様のサンドイッチ」

《ねらい》 毎日の食事のような当たり前の生活の中に、多くの人のお世話があることを理解し、感謝の気持ちをもって生活しようとする態度を育てる。

《あらすじ》

ある国の王様は手軽に食べられるサンドイッチが大好き。サンドイッチを作るのは簡単なのだから、「自分が食べたいときには真夜中であってもいつでも作ってほしい!」「同じ味は作ってはいけない!」とわがままを言います。お城のコック達は毎日一生懸命違う味のサンドイッチを作りますが、どうしても以前出されたものと似たようなサンドイッチになってしまいます。王様は「パンにはさむだけの簡単なサンドイッチなのだからもっと違うサンドイッチを出しなさい!」と文句を言いました。するとコック長はサンドイッチ作りの様子を実際に見てほしいと調理場に案内します。そこでは、サンドイッチを挟むパンをこねて焼いているコック。野菜を育てて持ってきてくれる農家。野菜を切ったり卵を混ぜて焼いたりしているコック。丁寧に具材を挟んでいるコック。作る様子を見ることで、王様は1つのサンドイッチを作るのに、たくさんの方が関わってくれていることに気付くことができました。王様は出された普通のサンドイッチを一口一口味わって食べ、「サンドイッチは簡単だけど、簡単ではないのだな。」と言いました。



「どんなときに感謝を伝えるのかな?」というテーマで話し合いを行いました。王様は作っている様子を見てどんなことを考えたのかを問うと、

- ・サンドイッチを作るのは大変なんだな。知らなかつ自分がはずかしいな。
- ・こんなにたくさんの人が頑張って作ってくれているんだ。いつもありがとう。

と、たくさんのコックが一生懸命サンドイッチを作ってくれていることや当たり前だと思っていたことが当たり前じゃないということに気付いて感謝の気持ちや申し訳なさを感じている王様の気持ちを考えることができました。

自分たちの生活の中で感謝したいことを出し合うと、

- ・お家の人がご飯を作ったり洗濯をしたりしてくれていること
- ・学校で使う文房具や机なども作ってくれる人がいること
- ・みんなが通う学校を建ててくれた人や先生たちがいてくれること

などがあると話していました。みんなの生活にはたくさんの方が関わってくれています。当たり前のことをだと思わず、いつも感謝の気持ちをもって過ごしていきたいですね。